

脚立を利用した作業の労働災害を防止しましょう！

脚立は、業種を問わず、多くの事業場で身近に使用されている用具であり、ご家庭でもお持ちの用具です。しかし、この脚立を用いた作業において、多くの重篤（休業1か月以上）な労働災害が発生しているのをご存知でしょうか。脚立の適切な使用により労働災害を防止しましょう！

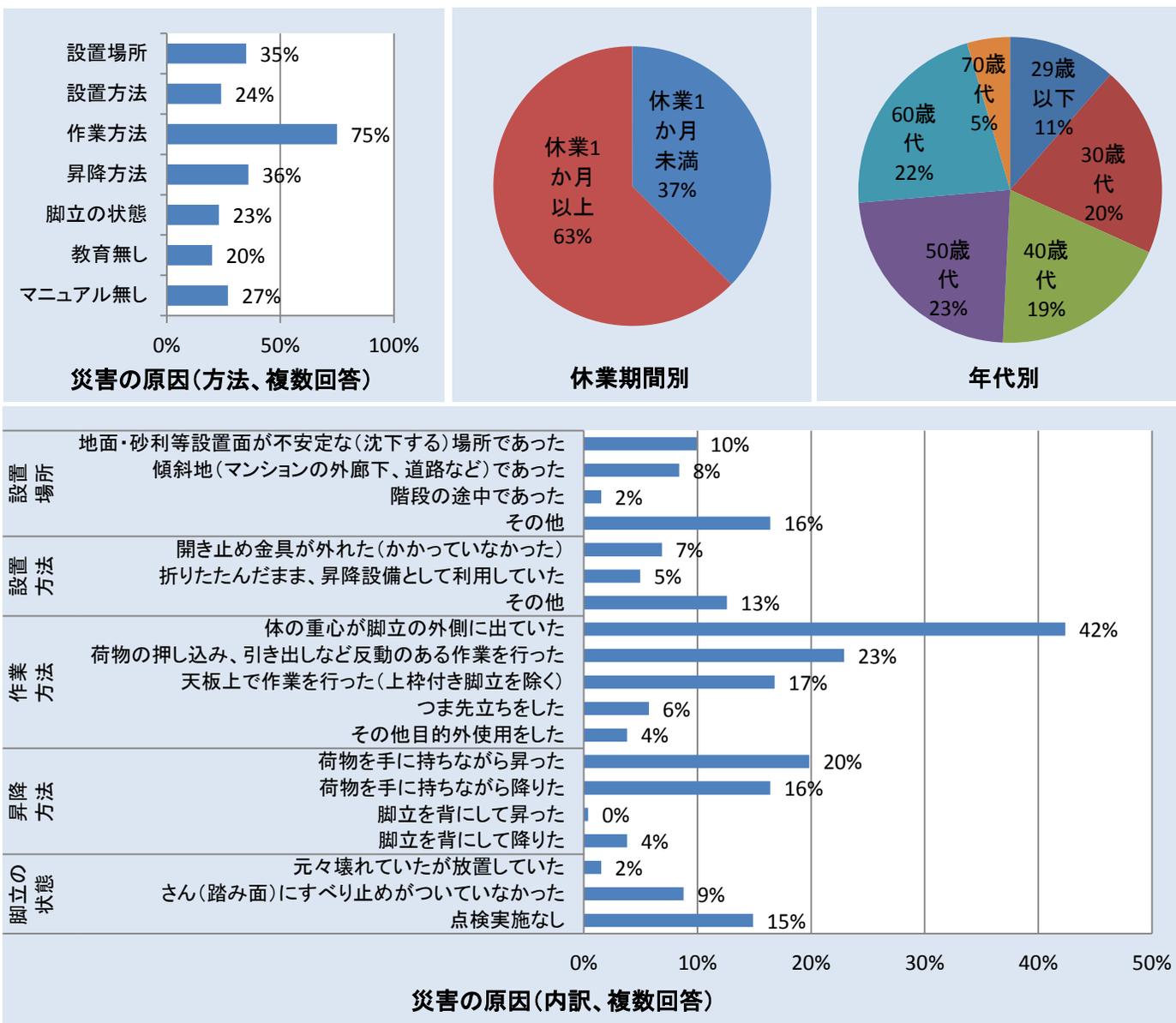
1. 脚立による労働災害の発生状況と原因

東京労働局・各労働基準監督署では、脚立が災害に直接関係する労働災害（休業4日以上）が発生した事業場のご協力をいただき、アンケート調査を実施し、その結果を集計しました（有効回答数262件、平成24年1月～平成27年2月分まで）。

災害の原因として考えられるものについての質問では、作業方法を原因とする回答が75%と最も多く、昇降方法36%、設置場所35%と続きました。特に作業方法についての内訳として、「体の重心が脚立の外側に出ている」が42%、「反動のある作業を行った」が、23%となっています。なお、複数の原因があったとの回答が70%を占めました。

年代別では、50歳代以上と未満がほぼ半々の状況でした。

災害の程度は休業見込み日数が1か月以上のものが63%となっており、災害が発生するとかなり重い災害になっています。



2. こんな作業は危険です ～無理な作業は危険です。ひと手間かけて安全作業！～



3. 脚立を利用した作業の災害事例

性別	年代	業種	災害の概要
女性	29歳以下	小売業	ストック内で作業中に脚立の一番上に乗った。その際、脚立のストッパーがきちんとはまっておらずそのまま落下。負傷したもの。
男性	29歳以下	ビルメンテナンス業	プレハブ内冷蔵庫に脚立を立て掛け、脚立上部で他の者に工具を手渡し、その後、降りようとした際、脚立脚部が滑り、本人が脚立と共に倒れ負傷した。
男性	30歳代	小売業	商品のカウント作業中、日用品の入った箱を棚から降ろそうと脚立の一番上に立ち、箱を持ち上げたところ、バランスを崩して脚立から落ちたもの。
男性	40歳代	小売業	店舗内売り場前において、天井からぶら下げるPOPの取り付け作業中に、バランスを崩して脚立から墜落し、背中から近くの棚に激突し、負傷したもの。
男性	50歳代	建設業	倉庫内で段ボール箱を持って脚立に乗り、棚に収納時、足をすべらせ1段目と2段目の間に足が入り、ひねり、脚立ごと倒れ腰を強打したもの。
男性	50歳代	清掃業	排気フィルターを交換するため脚立に乗り、交換していたところ、フィルター押えが硬かったため、勢い良く引っ張ってしまったら抜けてしまい、その勢いで脚立より転落したもの。
男性	60歳代	建設業	壁面補修作業後の、清掃の為、脚立にのぼり上部壁面を拭いていたところ、床が作業中に使用した水でぬれていたため脚立がすべり倒れて脚立から落下し骨盤を骨折した。
女性	70歳代	教育研究業	控え室で、脚立に乗ってカーテンのつけ替え作業をしていた。背伸びをして高所のカーテンレールに手を伸ばした為、バランスを崩して転倒したもの。

4. 脚立の労働災害防止チェックリスト

チェック項目	☑
脚立の脚部は滑り、沈下のない状態で使用している。	<input type="checkbox"/>
脚立は傾きのない安定した場所に設置している。	<input type="checkbox"/>
開き止め金具をかけて使用している。	<input type="checkbox"/>
脚立はこまめに移動して、体の重心が脚立の外側に出ないようにしている。	<input type="checkbox"/>
荷物の押し込み、荷物の引き出しなど反動のある作業は行っていない。	<input type="checkbox"/>
天板上で作業をしていない。つま先立ちをしていない。	<input type="checkbox"/>
荷物を手に持ちながら昇降していない。	<input type="checkbox"/>
脚立を背にして昇降していない。	<input type="checkbox"/>
使用前点検を行って異常がないことを確認している。	<input type="checkbox"/>
さん(踏み面)にすべり止めがついている。	<input type="checkbox"/>
脚立の使用方法について教育を実施している。	<input type="checkbox"/>
脚立の使用について作業マニュアルを作成している。	<input type="checkbox"/>

チェックリストで危険な作業を防ぎましょう。
また、会社として、脚立の説明書等を参考として安全教育を実施しましょう。